

# 講 義 概 要

作業療法学科夜間部 第3学年

2024

# 目 次

作業療法学科夜間部 第3学年

作業療法管理学（土居）.....	145
高齢期評価学（須藤）.....	146
作業療法評価学実習Ⅰ（中込）.....	147
作業療法評価学実習Ⅱ（阿部）.....	151
作業療法評価学演習（土居）.....	153
高齢期作業治療学（須藤）.....	155
高次脳機能作業治療学（阿部）.....	156
生活適応学（阿部）.....	157
身体機能作業治療学実習Ⅰ（須藤）.....	158
精神機能作業治療学実習Ⅰ（土居）.....	159
発達過程作業治療学実習Ⅰ（阿部）.....	160
発達過程作業治療学実習Ⅱ（阿部）.....	161
高齢期作業治療学実習Ⅰ（須藤）.....	162
高次脳機能作業治療学実習Ⅰ（阿部）.....	163
生活適応学実習（須藤）.....	164
臨床技術演習Ⅰ（土居）.....	166
地域作業療法学Ⅰ（土居）.....	167
地域作業療法学Ⅱ（土居）.....	168
臨床評価実習（土居 他・専任教員）.....	169

専門分野	作業療法管理学	夜間部 3年次	後期	2単位・15回	講義	土居大祐
<b>GIO (一般教育目標)</b> 作業療法部門の管理・運営(マネジメント)について基本的な視点を理解する。						
<b>SBO (行動目標)</b> 1. 作業療法部門の管理・運営について説明できる。 2. 医療関係の中における他部門と作業療法部門の役割を理解することができる。 3. 管理・運営に関する法律・制度について理解することができる。						
<b>授業概要</b> 管理・運営(マネジメント)について基本的な概念を学習し、作業療法に関わる診療報酬や施設認可の規定、記録などの個人情報の取り扱い、医療事故・ヒヤリハットに対する危機管理等を理解する。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	作業療法におけるマネジメント			授業資料の復習		
2	組織の成り立ちとマネジメント			授業資料の復習		
3	情報のマネジメント			授業資料の復習		
4	作業療法と医療サービス			授業資料の復習		
5	医療安全のマネジメント			授業資料の復習		
6	作業療法業務のマネジメント①～人・物・経済性のマネジメント～			授業資料の復習		
7	作業療法業務のマネジメント②～情報・時間・ストレスのマネジメント～			授業資料の復習		
8	作業療法業務のマネジメント③～実践からの学び～			授業資料の復習		
9	作業療法の役割と職域			授業資料の復習		
10	作業療法士の職業倫理			授業資料の復習		
11	作業療法をとりまく諸制度			授業資料の復習		
12	作業療法臨床実習と管理体制			授業資料の復習		
13	作業療法士のキャリア開発			授業資料の復習		
14	リスクマネジメントについて			授業資料の復習		
15	国家試験問題について			授業資料の復習		
使用教科書	適宜、資料配付する					
参考図書	「作業療法管理学入門 第2版」医歯薬出版株式会社					
単位認定の方法及び基準	課題提出及び定期試験、授業態度の総合評価(100%)再試験の取り扱い:有					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として病院に10年勤めた経験が有る。その実務経験に基づき、臨床現場で活躍できる作業療法士育成に繋がる授業を展開していく。					
有						

専門分野	高齢期評価学	夜間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 高齢者の身体・心理・社会的特性および現代の社会背景を把握し、高齢者に対する作業療法の目的・介入の原則を理解する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 高齢者および高齢者の生活を支える介護者を取り巻く社会的問題を説明できる。② 高齢者の身体・精神・心理的特徴を列挙できる。③ 高齢者に生じやすい症候・疾病とその原因を説明できる。④ 高齢者の健康状態（身体・精神・心理）および日常生活を客観的に理解する方法・手段を説明できる。⑤ 高齢者に対する作業療法事例を読み解き、情報を整理し全体像を説明することができる。⑥ 医療・保健・地域福祉：各領域における高齢者の生活特性を把握し、評価・介入の原則（：目標設定）を説明できる。						
<b>授業概要</b> 少子高齢社会における諸問題を身近に感じながら、作業療法士に求められる役割を考察できるよう導く。事例報告や学術論文、新聞記事を用い、高齢者の生活を多角的かつ客観的にとらえる具体的方法を紹介する。さまざまな職種、地域社会とともに活躍できる作業療法士を目指し、高齢者を対象とした作業療法評価・介入の原則を学ぶ。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	高齢社会を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
2	高齢期の課題を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
3	社会制度を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
4	高齢期の作業療法を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
5	高齢期の特徴を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
6	高齢期に多い疾患について理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
7	認知症の全体像を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
8	作業療法実践の基本的枠組みを理解できる①			予定している主題範囲内の教科書を読む		
9	作業療法実践の基本的枠組みを理解できる②			予定している主題範囲内の教科書を読む		
10	一般高齢社会に対する作業のあり方を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
11	介護予防の作業療法について理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
12	認知症高齢者に対する作業療法のあり方を理解できる			予定している主題範囲内の教科書を読む		
13	事例検討：作業療法評価計画を立案する①			予定している主題範囲内の教科書を読む		
14	事例検討：作業療法評価計画を立案する②			予定している主題範囲内の教科書を読む		
15	高齢者の認知機能評価・総論			高齢者のための知的機能検査の手引きを読む		
<b>使用教科書</b>		「高齢期作業療法学 第3版」医学書院 「高齢者のための知的機能検査の手引き」（株）ワールドプランニング				
<b>参考図書</b>		「老年期の作業療法 第3版」三輪書店 「身体障害作業療法学 第4版」医学書院				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		定期試験80%、授業内提出物20%をもって判定する。なお、提出期限後の提出および未提出の場合は減点する。【再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する】				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として、介護老人保健施設、総合病院（急性期）での業務経験を持つ。臨床経験を踏まえて、高齢期作業療法の実践について伝える。				
有						

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	夜間部 3年次	通年	4単位・60回	実習	中込慶太
<b>GIO（一般教育目標）</b> 身体分野の評価が行えるようになるために、代表的な評価についての知識・技術を習得する						
<b>SBO（行動目標）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。</li> <li>各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。</li> <li>各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。</li> <li>各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。</li> </ul>						
<b>授業概要</b> 作業療法士が実施する検査や評価を実習先や臨床で安全に行えるよう実例や注意点、リスク管理を踏まえ実践できるように授業展開していく。また、検査以外にも対象者への声かけなど評価、検査の一連が医療従事者として適切に行えるように総合的に学べるようにする。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	評価とは			予定している範囲内の教科書を読む		
2	面接法・観察法の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
3	面接法・観察の実践			予定している範囲内の教科書を読む		
4	意識,バイタルサインの測定,臨床検査値の読み方			予定している範囲内の教科書を読む		
5	バイタル測定の実践			検査手技を復習する		
6	形態計測の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
7	形態計測			計測の骨指標を復習する		
8	形態計測			検査手技を復習する		
9	確認テスト			検査手技を復習する		
10	関節可動域測定の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
11	関節可動域測定（頸部、肩甲帯）			検査手技を復習する		
12	関節可動域測定（上肢）			検査手技を復習する		
13	関節可動域測定（下肢）			検査手技を復習する		
14	関節可動域測定（体幹）			検査手技を復習する		
15	関節可動域測定のまとめ			検査手技を復習する		
使用教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版（医学書院） 新・徒手筋力検査法第10版（協同医書出版社）					
参考図書	特になし（授業内で紹介します）					
単位認定の方法及び基準	課題(小テスト含む)60% 実技試験40%による総合評価					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、全領域で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。					
有						

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	夜間部 3年次	通年	4単位・60回	実習	中込慶太
<b>GIO（一般教育目標）</b> 身体分野の評価が行えるようになるために、代表的な評価についての知識・技術を習得する						
<b>SBO（行動目標）</b> ・各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 ・各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 ・各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 ・各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。						
<b>授業概要</b> 作業療法士が実施する検査や評価を実習先や臨床で安全に行えるよう実例や注意点、リスク管理を踏まえ実践できるように授業展開していく。また、検査以外にも対象者への声かけなど評価、検査の一連が医療従事者として適切に行えるように総合的に学べるようにする。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
16	関節可動域測定の確認テスト			検査の実技を復習する		
17	筋力検査の概要			検査の実技を復習する		
18	筋力検査（肩甲帯）			検査の実技を復習する		
19	筋力検査（上肢：肩関節）			検査の実技を復習する		
20	筋力検査（上肢：肘関節～手指）			検査の実技を復習する		
21	筋力検査（上肢）まとめ			検査の実技を復習する		
22	筋力検査（上肢）確認テスト			検査の実技を復習する		
23	筋力検査（下肢：股関節）			検査の実技を復習する		
24	筋力検査（下肢：膝関節～足指）			予定している範囲内の教科書を読む		
25	筋力検査（下肢：体幹）			検査の実技を復習する		
26	筋力検査（下肢、体幹）まとめ			検査の実技を復習する		
27	筋力検査（下肢、体幹）確認テスト			予定している範囲内の教科書を読む		
28	感覚検査の概要			検査の実技を復習する		
29	感覚検査			検査の実技を復習する		
30	感覚検査			検査の実技を復習する		
<b>使用教科書</b>		標準作業療法学 作業療法評価学 第3版（医学書院） 新・徒手筋力検査法第10版（協同医書出版社）				
<b>参考図書</b>		特になし（授業内で紹介します）				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		課題(小テスト含む)60% 実技試験40%による総合評価				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、全領域で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。				
有						

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	夜間部 3年次	通年	4単位・60回	実習	中込慶太
<b>GIO（一般教育目標）</b> 身体分野の評価が行えるようになるために、代表的な評価についての知識・技術を習得する						
<b>SBO（行動目標）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。</li> <li>各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。</li> <li>各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。</li> <li>各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。</li> </ul>						
<b>授業概要</b> 作業療法士が実施する検査や評価を実習先や臨床で安全に行えるよう実例や注意点、リスク管理を踏まえ実践できるように授業展開していく。また、検査以外にも対象者への声かけなど評価、検査の一連が医療従事者として適切に行えるように総合的に学べるようにする。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
31	反射検査の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
32	反射検査			検査の実技を復習する		
33	反射検査			検査の実技を復習する		
34	感覚検査、反射検査の確認テスト			検査の実技を復習する		
35	脳神経検査の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
36	脳神経検査			検査の実技を復習する		
37	上肢機能検査の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
38	上肢機能検査			検査の実技を復習する		
39	上肢機能検査			検査の実技を復習する		
40	姿勢反射の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
41	姿勢反射検査			検査の実技を復習する		
42	筋緊張の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
43	筋緊張検査			検査の実技を復習する		
44	協調性検査の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
45	協調性検査			検査の実技を復習する		
使用教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版（医学書院） 新・徒手筋力検査法第10版（協同医書出版社）					
参考図書	特になし（授業内で紹介します）					
単位認定の方法及び基準	課題(小テスト含む)60% 実技試験40%による総合評価					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、全領域で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。					
有						

専門分野	作業療法評価学実習Ⅰ	夜間部 3年次	通年	4単位・60回	実習	中込慶太
<b>GIO（一般教育目標）</b> 身体分野の評価が行えるようになるために、代表的な評価についての知識・技術を習得する						
<b>SBO（行動目標）</b> ・各評価の種類や分類を理解し、実践する事ができる。 ・各評価で使用する器具を理解し、適切に使用する事ができる。 ・各評価を実施する際の禁忌や留意点を理解し、実践する事ができる。 ・各評価を正しい方法、専門用語を使用し記録、報告する事ができる。						
<b>授業概要</b> 作業療法士が実施する検査や評価を実習先や臨床で安全に行えるよう実例や注意点、リスク管理を踏まえ実践できるように授業展開していく。また、検査以外にも対象者への声かけなど評価、検査の一連が医療従事者として適切に行えるように総合的に学べるようにする。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
46	摂食・嚥下検査			予定している範囲内の教科書を読む		
47	確認テスト			検査の実技を復習する		
48	脳血管障害評価の概要			予定している範囲内の教科書を読む		
49	片麻痺機能検査			検査の実技を復習する		
50	片麻痺機能検査			検査の実技を復習する		
51	片麻痺機能検査			検査の実技を復習する		
52	片麻痺機能検査			検査の実技を復習する		
53	脳血管障害の評価まとめ			検査の実技を復習する		
54	片麻痺機能検査の確認テスト			予定している範囲内の教科書を読む		
55	事例の評価検討			評価内容を復習する		
56	事例の評価検討			評価内容を復習する		
57	事例評価の発表			評価内容を復習する		
58	事例評価の発表			評価内容を復習する		
59	実技総合テスト			検査の実技を復習する		
60	実技総合テスト			検査の実技を復習する		
<b>使用教科書</b>		標準作業療法学 作業療法評価学 第3版（医学書院） 新・徒手筋力検査法第10版（協同医書出版社）				
<b>参考図書</b>		特になし（授業内で紹介します）				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		課題(小テスト含む)60% 実技試験40%による総合評価。				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 総合病院や通所・訪問系サービスに携わった経験がある。病院や施設での実務経験に基づいて、全領域で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。				
有						



専門分野	作業療法評価学実習Ⅱ	夜間部 3年次	通年前期	2単位・15回	実習	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 作業療法士として臨床に必要な観察技能を習得し、その観察から作業療法評価計画の立案ができる						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 姿勢および基本的動作場面の観察から特徴を捉えることができる ② 姿勢および動作分析について、専門用語を用いた表現ができる ③ 姿勢および基本的動作場面の観察から作業療法計画の立案ができる						
<b>授業概要</b> ペアまたは小グループでお互いの姿勢および基本的動作の観察を実施する。観察するポイントを提示し、視診した箇所について触診も加え予測できる能力を育てていく。また、障害を抱えた事例の画像や動画を用い、疾患からの特徴や個性を捉える観察能力を高め、さらに作業療法評価計画の立案過程が整理できるよう授業展開していく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	姿勢分析とは			予定している範囲内の教科書を読む		
2	姿勢分析（健常者の臥位）			予定している範囲内の教科書を読む		
3	姿勢分析（健常者の臥位）			骨指標を復習する		
4	姿勢分析（障害者の臥位）			指定した疾患を復習する		
5	姿勢分析（障害者の臥位）			指定した疾患を復習する		
6	姿勢分析（健常者の座位）			予定している範囲内の教科書を読む		
7	姿勢分析（障害者の座位）			骨指標を復習する		
8	姿勢分析（高齢者の座位）			高齢者の姿勢の特徴を復習する		
9	姿勢分析（片麻痺者の座位）			片麻痺の姿勢の特徴を復習する		
10	姿勢分析（パーキンソン病患者の座位）			パーキンソン病患者の姿勢の特徴を復習する		
11	姿勢分析（健常者の立位）			予定している範囲内の教科書を読む		
12	姿勢分析（健常者の立位）			骨指標を復習する		
13	姿勢分析（高齢者の立位）			高齢者の姿勢の特徴を復習する		
14	姿勢分析（片麻痺者の立位）			片麻痺の姿勢の特徴を復習する		
15	姿勢分析（パーキンソン病患者の立位）			パーキンソン病患者の姿勢の特徴を復習する		
使用教科書	姿勢・動作・歩行分析 第2版 羊土社					
参考図書	必要に応じて授業内で紹介する					
単位認定の方法及び基準	理解度チェックの小テスト30%、定期試験70%による総合評価（通年評価）。再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として長年臨床現場に関わり、様々な評価・治療を行ってきた。その経験を活かし実例をもとに講義や演習を行っていく。					
有						

専門分野	作業療法評価学実習Ⅱ	夜間部 3年次	通年後期	2単位・15回	実習	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 作業療法士として臨床に必要な観察技能を習得し、その観察から作業療法評価計画の立案ができる						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 姿勢及び基本的動作場面の観察から特徴を捉えることができる ② 姿勢および動作分析について、専門用語を用いた表現ができる ③ 姿勢および基本的動作場面の観察から作業療法計画の立案ができる						
<b>授業概要</b> ペアまたは小グループでお互いの姿勢および基本的動作の観察を実施する。観察するポイントを提示し、視診した箇所について触診も加え予測できる能力を育てていく。また、障害を抱えた事例の画像や動画を用い、疾患からの特徴や個性を捉える観察能力を高め、さらに作業療法評価計画の立案過程が整理できるよう授業展開していく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
16	動作分析とは			予定している範囲内の教科書を読む		
17	動作分析（健常者の起居動作）			予定している範囲内の教科書を読む		
18	動作分析（片麻痺者の起居動作）			指定した疾患を復習する		
19	動作分析（パーキンソン病患者の起居動作）			指定した疾患を復習する		
20	動作分析（健常者の起立、着座動作）			予定している範囲内の教科書を読む		
21	動作分析（軽度片麻痺者の起立、着座動作）			指定した疾患を復習する		
22	動作分析（重度片麻痺者の起立、着座動作）			指定した疾患を復習する		
23	動作分析（パーキンソン病患者の起立、着座動作）			指定した疾患を復習する		
24	動作分析（健常者の歩行動作）			予定している範囲内の教科書を読む		
25	動作分析（片麻痺者の歩行動作）			指定した疾患を復習する		
26	動作分析（パーキンソン病患者の歩行動作）			指定した疾患を復習する		
27	動作分析（対麻痺者の歩行動作）			指定した疾患を復習する		
28	動作分析（高齢者の歩行動作）			指定した疾患を復習する		
29	動作分析（ADL動作）			予定している範囲内の教科書を読む		
30	動作分析（ADL動作）			予定している範囲内の教科書を読む		
<b>使用教科書</b>		姿勢・動作・歩行分析 第2版 羊土社				
<b>参考図書</b>		「動作分析 臨床活用講座ーバイオメカニクスに基づく臨床推論の実践ーメジカルビュー社」 ほか必要に応じて授業内で紹介する				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		理解度チェックの小テスト30%、定期試験70%による総合評価（通年評価）。再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として長年臨床現場に関わり、様々な評価・治療を行ってきた。その経験を活かし実例をもとに講義や演習を行っていく。				
有						

専門分野	作業療法評価学演習	夜間部 3年次	通年	4単位・30回	演習	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 臨床実習及び将来的に作業療法士として働いていく上で、必要な技術・臨床的態度を理解し、臨床評価実習に出る為の実践的準備・学習が出来る						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 臨床現場で相応しい態度・接遇を理解し、実践する事が出来る ② デイリーノートを書く事が出来る ③ 作業療法のプロセスを理解し、必要な評価項目を選択し評価計画を立案出来る ④ 評価結果からICFにまとめ、目標を設定し考察する事が出来る						
<b>授業概要</b> 臨床見学（学内実習）で学んだ経験を振り返り、各々で課題を見つけ、臨床実習に向けた準備に繋げる。臨床での作業療法士のプロセスに必要な評価項目を選択し、評価計画を立案。評価結果からICFにまとめて、目標を設定するまでの工程を学び、記載する事が出来る様になる。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	オリエンテーション（臨床評価見学を振り返る）			予：臨床見学での経験のまとめ		
2	筋肉カード作り（下肢）			復：下肢の筋肉カード作り		
3	作業療法のプロセスについて			復：配布した資料を読み返す		
4	フェイスシートの書き方			復：フェイスシート記入の練習		
5	ケースレポートとレジュメ			復：配布した資料を読み返す		
6	情報収集（一般・他部門）			予：他部門の仕事内容について調べてくる		
7	疾患別評価項目①～身体疾患編～			復：疾患別評価項目調べ		
8	疾患別評価項目②～精神疾患編～			復：疾患別評価項目調べ		
9	ICFにまとめる			復：配布資料を読み返す		
10	問題点の抽出			復：配布資料を読み返す		
11	目標設定			復：配布資料を読み返す		
12	治療計画立案①～身体疾患編～			復：配布資料を読み返す		
13	課題			復：配布資料を読み返す		
14	治療計画立案②～精神疾患編～			復：配布資料を読み返す		
15	課題			復：配布資料を読み返す		
使用教科書	『実習の要点を網羅！ 作業療法臨床実習のチェックポイント』株式会社メジカルビュー社					
参考図書	『臨床実習とケーススタディ 第2版』医学書院					
単位認定の方法及び基準	課題提出及び定期試験による総合評価 再試験の取り扱い：有					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として10年勤めた経験が有り、臨床見学及び、臨床実習で多くの学生を指導してきた。その経験を活かし、作業療法評価学演習で必要な技術・知識を習得する為、事例検討を含めた授業を展開していく。					
有						

専門分野	作業療法評価学演習	夜間部 3年次	通年	4単位・30回	演習	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 臨床実習及び将来的に作業療法士として働いていく上で、必要な技術・臨床的態度を理解し、臨床評価実習に出る為の実践的準備・学習が出来る						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 臨床現場での相応しい態度・接遇を理解し、実践する事が出来る ② 作業療法のプロセスを理解し、必要な評価項目を選択し、評価計画を立案出来る ③ 評価計画をもとに、評価技術を練習し、授業内実習の日に実施出来る ④ 評価結果をICFにまとめ、考察し、目標を設定する事が出来る						
<b>授業概要</b> 臨床評価実習に向けた実践的準備を行う事をねらいとする。臨床での作業療法士のプロセスに必要な評価項目を選択し、評価計画を立案し、授業内実習日、当事者に評価を行う。授業内実習に向けて、グループ/個人での必要な知識の学習や実技練習、発表準備の時間を設ける。授業内実習の後、結果をICFにまとめ、目標を設定し、発表する。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
16	臨床評価実習の目的、CCSについて			臨床評価実習に向けた個人目標を考える		
17	デイリーノート、ケースシート、経験チェックシート			臨床実習で用いる記録方法を理解する		
18	トップダウンアプローチ、ボトムアップアプローチ			配布された資料を熟読する		
19	MTDLPについて：総論			配布された資料を熟読する		
20	授業内実習オリエンテーション、発表資料の説明					
21	授業内評価実習準備①			グループで評価の計画・準備・練習		
22	授業内評価実習準備②			グループで評価の計画・準備・練習		
23	授業内評価実習準備③			グループで評価の計画・準備・練習		
24	授業内評価実習（当事者の方に患者役を依頼する予定） ※指定した日の12:00～17:00に実施			対象者に評価を実施		
25	授業内評価実習 演習(グループで評価まとめ、発表資料作成)			グループで評価結果をまとめる		
26	授業内評価実習 演習(グループで評価まとめ、発表資料作成)			グループで評価結果をまとめる		
27	授業内評価実習 演習(発表と質疑応答)			発表・資料の準備		
28	臨床評価実習に向けて			臨床実習の手引きの記載の内容を理解する		
29	臨床評価実習に向けて			臨床評価実習の事前準備をする		
30	臨床評価実習に向けて			臨床評価実習の事前準備をする		
使用教科書	『実習の要点を網羅！ 作業療法臨床実習のチェックポイント』株式会社メジカルビュー社					
参考図書	『臨床実習とケーススタディ 第2版』医学書院					
単位認定の方法及び基準	課題提出及び定期試験による総合評価 再試験の取り扱い：有					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として10年勤めた経験が有り、臨床見学及び、臨床実習で多くの学生を指導してきた。その経験を活かし、臨床評価実習に出る為の実践的準備を含めた授業を展開していく。					
有						

専門分野	高齢期作業治療学	夜間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 高齢期に多くみられる疾患に対する基礎知識と作業療法の治療的介入方法について、過去の国家試験問題から学び深める。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 高齢期に多くみられる疾患の症状が生活に及ぼす影響を説明することができる。 ② 認知症の分類や疾患を列挙できる。また、行動や症状のとらえかたを検討することができる。 ③ 国家試験問題を解きながらシェア学習ができる。						
<b>授業概要</b> 高齢期における作業療法の概要を学ぶ。また、高齢期に多くみられる疾患について復習し、症状がどのように生活に影響を及ぼすか、作業療法ではどのような関わりがあるのかなどの考えを導く。また、過去の国家試験問題をもとにポスター作成やシェア学習ができるよう工夫しながら授業を進めていく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	高齢期の生理的特徴について自己学習			配布資料から調べ学習する項目を列挙する		
2	シェア学習			ポスター内容の復習		
3	高齢期の身体・心理的特徴について自己学習			配布資料から調べ学習する項目を列挙する		
4	シェア学習			ポスター内容の復習		
5	高齢期に多い疾患：循環器、呼吸器疾患について自己学習			配布資料から調べ学習する項目を列挙する		
6	シェア学習			ポスター内容の復習		
7	高齢期に多い疾患：神経疾患について自己学習			配布資料から調べ学習する項目を列挙する		
8	シェア学習			ポスター内容の復習		
9	高齢期に多い疾患：運動器疾患について自己学習			配布資料から調べ学習する項目を列挙する		
10	シェア学習			ポスター内容の復習		
11	認知症の症状と周辺症状について自己学習①			配布資料から調べ学習する項目を列挙する		
12	認知症の症状と周辺症状について自己学習②			ポスター作成		
13	シェア学習			ポスター内容の復習		
14	MCIとその評価について：MoCA-J 演習			MoCA-J の評価練習		
15	まとめ					
使用教科書	「標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版」医学書院 「高齢者のための知的機能検査の手引き」（株）ワールドプランニング					
参考図書	「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版」医学書院					
単位認定の方法及び基準	授業課題50%、グループワーク発表50%をもって判定する。なおグループワーク発表に参加しなかったものはその分の点数を与えない。【再試験の取扱：無】					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として、身体障害領域の病院、介護老人保健施設での業務に従事した経験を持つ。臨床での経験を踏まえつつ、学生の主体的な調べ学習、クラス内発表を多く取り入れていきたい。					
有						

専門分野	高次脳機能作業治療学	夜間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 高次脳機能障害の概要、その評価や観察、治療手技・介入の仕方、注意点について理解する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ①高次脳機能障害の特徴について説明出来る ②高次脳機能障害の評価方法、その記録、ADL場面での観察事項について説明できる						
<b>授業概要</b> 講義・映像・演習を通じて、各高次脳機能障害の特徴と生活場面でどのような障害となるかを理解する。高次脳機能障害特有の評価バッテリーを体験し評価結果の記録、分析を実施する。事例検討からクライアントに応じた作業療法の展開が考えられるようにしていく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	高次脳機能障害の評価概要			予定している範囲内の教科書を読む		
2	脳解剖と画像診断			予定している範囲内の教科書を読む		
3	注意障害とは			予定している範囲内の教科書を読む		
4	注意障害の評価			注意障害の評価を復習		
5	注意障害の治療			予定している範囲内の教科書を読む		
6	半側空間無視とは			予定している範囲内の教科書を読む		
7	半側空間無視の評価			評価実技の復習		
8	半側空間無視の治療			予定している範囲内の教科書を読む		
9	記憶障害とは			予定している範囲内の教科書を読む		
10	記憶障害の評価と治療			評価実技の復習		
11	遂行機能とは			予定している範囲内の教科書を読む		
12	遂行機能障害の評価と治療			評価実技の復習		
13	失語とは、失語の評価と治療			予定している主題範囲内の教科書を読む		
14	失行とは、失行の評価と治療			予定している範囲内の教科書を読む		
15	失認とは、失認の評価と治療			予定している範囲内の教科書を読む		
<b>使用教科書</b>	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版（医学書院）					
<b>参考図書</b>	「病気がみえる⑦、脳・神経第2版」「身体機能作業療法学第3版」「作業療法評価学第3版」					
<b>単位認定の方法及び基準</b>	理解度チェックの小テスト30%、定期試験70%による総合評価。再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する					
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として長年臨床現場に関わり、様々な評価・治療を行ってきた。その経験を活かしクライアントに応じた作業療法評価計画および治療計画立案・実施ができるよう講義や演習を行っていく。					
有						

専門分野	生活適応学	夜間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 福祉用具をコーディネートするための基礎知識・技術を習得する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ①福祉用具の使用目的を列挙し、リハビリテーションにおける位置付けを説明できる。②一般的な福祉用具の名称と用途、適応例を列挙できる。③障害のタイプ別に代表的な福祉用具の名称と用途、適応例を列挙できる。④福祉用具の選定、提案・導入までのながれ、諸原則を説明できる。⑤作業療法士に求められるスプリント作成の基礎的知識・技術を説明できる。⑥簡易的なスプリントを作成できる。⑦福祉用具関連制度、社会的背景を説明できる。⑧疾患に適した自助具を作成することが出来る。						
<b>授業概要</b> 福祉用具とは何か。リハビリテーション・作業療法における位置付けを理解し、一般的な福祉用具の用途と選定、提供までのながれをシミュレーションできるよう導く。福祉用具を学び、作業療法士の専門性と役割を再考いただきたい。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	福祉用具の定義 リハビリテーション・作業療法における位置付けと関連する社会制度			(予習) 教育目標と授業概要を確認する。 ADLの構成要素(項目)を復習する。		
2	福祉用具の選定、提案・導入までのながれ アセスメント・段階づけ・指導			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
3	ADL項目別：一般的な福祉用具の紹介①（用途・適応例）			(復習) 配布資料をもとに、福祉用具の使用方法の確認。		
4	ADL項目別：一般的な福祉用具の紹介②（用途・適応例）			(復習) 配布資料をもとに、福祉用具の使用方法の確認。		
5	ADL項目別：一般的な福祉用具の紹介③（用途・適応例）			(復習) 配布資料をもとに、福祉用具の使用方法の確認。		
6	自助具作成/基礎知識・技術①			(予習) 自助具とは何かを調べる。障害をもった方の生活の中の不便を考える。		
7	自助具作成/基礎知識・技術③			(予習) 作成課題の物品準備		
8	自助具作成/基礎知識・技術③			(復習) 自助具を作成しての振り返り		
9	義肢装具①（概論）			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
10	義肢装具②（外部講師）			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
11	義肢装具③（外部講師）			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
12	スプリント作成のための基礎知識			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
13	スプリント作成/基礎知識・技術①			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
14	スプリント制作/基礎知識・技術②			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
15	新たな活躍領域：作業療法士による福祉用具開発 国家試験過去問			(復習) 配布資料を熟読し、理解する。		
使用教科書	『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 福祉用具学』メディカルビュー 『医歯薬出版 写真で見る基本スプリントの作り方』					
参考図書	適宜紹介する					
単位認定の方法及び基準	作成課題提出と発表30%（期限後の課題提出は減点とする）、定期試験70%による総合評価。再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として長年臨床現場に関わり、様々な評価・治療を行ってきた。その経験を活かし実例をもとに講義や演習を行っていく。					
有						



専門分野	身体機能作業治療学実習Ⅰ	夜間部 3年次	後期	1単位・15回	実習	須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 身体機能作業療法学の概念を学習し、中枢神経疾患、骨関節疾患、神経筋疾患などの臨床像を理解し、その生活機能障害に対して適切な作業療法が選択できるよう知識と技術を習得する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 作業療法プロセスの説明ができる ② 各疾患に応じた身体機能作業療法のアプローチ方法が説明できる ③ 作業療法臨床場面でのリスク管理について説明ができる						
<b>授業概要</b> 講義で身体機能作業療法の考え方、アプローチ方法を学習した後、実技場面において技術の一部を習得できるよう進める。また、臨床評価実習や4年次の身体機能作業治療学実習Ⅱにつながる基礎の授業になるため、評価から治療場面へと展開していく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	身体機能作業治療学の基本的知識①			復：関節可動域の維持・拡大について		
2	身体機能作業治療学の基本的知識②			復：筋力と筋持久力について		
3	身体機能作業治療学の基本的知識③			復：感覚・知覚再教育		
4	中枢神経疾患に対する作業療法			予：脳血管障害について		
5	中枢神経疾患に対する作業療法			予：脳血管障害について		
6	実技：身体の触り方、動かし方			復：実技練習		
7	実技：基本的な関節可動域訓練			復：実技練習		
8	実技：基本的な感覚促通訓練、筋力増強訓練			復：実技練習		
9	実技：アプローチ方法			復：実技練習		
10	骨関節疾患に対する作業療法			予：骨折・リウマチ・加齢による疾患		
11	神経筋疾患に対する作業療法			予：MS、GBS、重症筋無力症		
12	神経変性疾患に対する作業療法			予：パーキンソン病、ALS、SCD		
13	骨関節疾患のまとめ			復：過去の国家試験問題集を解く		
14	神経変性疾患・神経筋疾患のまとめ			復：過去の国家試験問題を解く		
15	総まとめ、SBO達成度の確認			SBO達成度の確認		
<b>使用教科書</b>		「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版」医学書院 「リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査値活用術」メジカルビュー社				
<b>参考図書</b>		「標準作業療法学 作業療法評価学 第3版」医学書院				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		定期試験70% 授業内課題30%により判定する。【再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する】				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として急性期病院、介護老人保健施設での業務に従事した経験を持つ。疾患に対するの評価、治療の考え方を含めた授業を展開していく。				
有						



専門分野	精神機能作業治療学実習Ⅰ	夜間部 3年次	後期	1単位・15回	実習	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 精神科作業療法において重要な行動と態度について実践的に身に付ける						
<b>SBO（行動目標）</b> 対象者に対し、配慮しながら次に掲げる行動を実施できる (1) 対人的な対応をしながら観察できる (2) 1対1の面接場面において相手の話しを引き出す事ができる (3) グループミーティングの進行						
<b>授業概要</b> 皆の前で行動する、皆の様子を見る、メンバーの良い所を真似るといったグループの力を活用しながら、実践する事を通して身に付けていく						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	治療的行為を行うために自分を知る			復習		
2	指示法演習			日常生活において練習		
3	活動観察演習			日常生活において練習		
4	活動による影響（自由度）			復習		
5	相手の立場になる			復習		
6	個人面接演習① 初回挨拶			イメージにおいて練習		
7	個人面接演習② 作業療法の説明と了解			イメージにおいて練習		
8	個人面接演習③ 趣味や興味関心			イメージにおいて練習		
9	個人面接演習④ まとめ			イメージにおいて練習		
10	個人面接場면을観察して			第6回～9回の復習		
11	作業場面演習① 作業観察について			イメージにおいて練習		
12	作業場面演習② 実践			イメージにおいて練習		
13	作業場면을観察して			第11回、第12回の復習		
14	グループワーク① SSTについて			イメージにおいて練習		
15	グループワーク② SSTの実践			イメージにおいて練習		
使用教科書	指定しない。必要に合わせて資料を配付する。					
参考図書	精神科作業療法の治療技法については各授業の教科書を参照のこと					
単位認定の方法及び基準	課題提出及び確認テスト、授業態度の総合評価（100%）再試験の取り扱い：有					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 精神科病院にて作業療法士として治療に携わった経験がある。精神科作業療法の実務経験に基づいて、精神科領域で活躍出来る作業療法士の養成の為に授業を展開していく。					
有						

専門分野	発達過程作業治療学実習Ⅰ	夜間部 3年次	前期	2単位・15回	実習	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 脳性麻痺、運動障害が主たる疾患児に対して、治療計画及び治療の理解・実践が出来ることを目的とする。						
<b>SBO（行動目標）</b> ①脳性麻痺・運動障害が主たる疾患児に対する治療の概要を理解し、実施することが出来る ②脳性麻痺、運動障害が主たる疾患児に対して、基本的な生活技能の援助法を理解し、実施することが出来る						
<b>授業概要</b> 本授業では、主に発達障害の運動障害分野に関する治療・介入法について、講義と演習、実践を通して学ぶ。また症例検討を通して、対象者とその家族に対する理解も深めることを狙いとする。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	脳性麻痺：治療的介入①			復：テキスト・配布資料の復習		
2	脳性麻痺：治療的介入②			復：テキスト・配布資料の復習		
3	脳性麻痺：治療的介入③			復：テキスト・配布資料の復習		
4	他の運動障害疾患：疾患像と治療的介入			復：テキスト・配布資料の復習		
5	治療手技・介入の仕方 実践①			復：実技の復習		
6	治療手技・介入の仕方 実践②			復：実技の復習		
7	基本的な生活技能の援助①ポジショニング・シーティング			復：テキスト・配布資料の復習、実技の復習		
8	基本的な生活技能の援助②食事			復：テキスト・配布資料の復習、実技の復習		
9	基本的な生活技能の援助③更衣			復：テキスト・配布資料の復習、実技の復習		
10	基本的な生活技能の援助④おもちゃ作成・企画			復：テキスト・配布資料の復習		
11	基本的な生活技能の援助⑤ICT機器			復：テキスト・配布資料の復習		
12	基本的な生活技能の援助⑥まとめ			復：配布資料の復習		
13	おもちゃ発表			復：作成内容の振り返り		
14	症例検討：グループワーク			発表資料の作成		
15	症例検討：発表・質疑・フィードバック			総まとめ		
使用教科書	・イラストで分かる 発達障害の作業療法 医歯薬出版 ・知りたかった！PT・OTのための発達障害ガイド 金原出版					
参考図書	適宜、資料配布する。					
単位認定の方法及び基準	定期試験70%グループワーク発表15%レポート15%の総合評価。グループワーク・レポートに関してはルーブリックをもとに判定する。再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する。					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 発達の専門病院で長年勤務し、地域支援に携わった経験もある。病院や施設での実務経験に基づいて、臨床場面で活躍出来る作業療法士の養成のための授業を展開する。					
有						

専門分野	発達過程作業治療学実習Ⅱ	夜間部 3年次	後期	2単位・15回	実習	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 自閉症スペクトラム障害をはじめとする発達障害児に対して、支援計画及び支援の実践が出来ることを目的とする						
<b>SBO（行動目標）</b> ①自閉症スペクトラム障害をはじめとする発達障害児に対する支援の概要を理解し実施することが出来る。 ②発達障害児に対するさまざまな介入法を理解し実施することが出来る。 ③発達分野の検査法を実習し、目的・内容を理解する。 ④問題行動について理解し、対処法の概要を示すことが出来る。 ⑤症例検討を通して発達障害の評価から治療・支援への流れを理解する						
<b>授業概要</b> 本授業では、主に発達障害の知的障害分野に関する支援・介入法について、講義と演習・実践を通して学ぶ。また症例検討を通して、対象者とその家族に対する理解も深めることを狙いとする。						
<b>回</b>	<b>授業計画又は学習の主題</b>			<b>授業時間外の予習・復習等</b>		
1	自閉症スペクトラム支援・介入法			復：テキスト・配布資料の復習		
2	注意欠如多動性障害介入法			復：テキスト・配布資料の復習		
3	発達検査法：講義			復：テキスト・配布資料の復習		
4	発達検査法：実習①			復：実習内容の復習		
5	発達検査法：実習②			復：実習内容の復習		
6	感覚統合理論・療法：講義・実践			復：テキスト・配布資料の復習、実技の復習		
7	知的障害介入法：さまざまな介入法①			復：テキスト・配布資料の復習、実技の復習		
8	知的障害介入法：さまざまな介入法②			復：テキスト・配布資料の復習、実技の復習		
9	問題行動の理解とその対処法			復：配布資料の復習		
10	地域支援の実際①：講義			復：配布資料の復習		
11	地域支援の実際②：演習			復：配布資料、演習内容の復習		
12	評価、治療の流れ①：概略			復：テキスト・配布資料の復習		
13	評価、治療の流れ②：症例を通して			復：テキスト・配布資料の復習		
14	症例検討：グループワーク			発表資料の作成		
15	症例検討：発表・質疑・フィードバック			総まとめ		
<b>使用教科書</b>	・イラストで分かる 発達障害の作業療法 医歯薬出版 ・知りたかった！PTOTのための発達障害ガイド 金原出版					
<b>参考図書</b>	適宜、資料配布する。					
<b>単位認定の方法及び基準</b>	定期試験70％グループワーク発表15％レポート15％の総合評価。グループワーク・レポートに関してはルーブリックをもとに判定する。再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する。					
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 発達の専門病院で長年勤務し、地域支援に関わった経験もある。病院や施設での実務経験に基づいて、臨床場面で活躍できる作業療法士の養成のための授業を展開する。					
有						

専門分野	高齢期作業治療学実習Ⅰ	夜間部 3年次	後期	1単位・15回	実習	須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 高齢期に多くみられる疾患に対する評価の実施、及びその結果を踏まえた場面ごとの作業療法目標の設定と治療計画について事例を交え学ぶことを目的とする。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 高齢期特有の基礎的な疾患を理解する。 ② 高齢者特有の基礎的な疾患に対する評価項目を選択し目標設定と治療計画について学ぶ。 ③ 障害高齢者の回復段階別の、生活に必要な作業療法とは何かを理解できる。						
<b>授業概要</b> 高齢者を取りまく社会的環境、加齢に伴う心身の変化、多くみられている疾患についての理解を深め、作業療法士として個々の生活にそった作業療法とは何かを学んでいく。グループ学習を取り入れて行っていく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	高齢期 作業療法の役割と機能			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
2	高齢期 急性期			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
3	高齢期 急性期事例			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
4	高齢期 回復期、回復期事例			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
5	高齢者 介護老人保健施設			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
6	高齢者 介護老人保健施設事例			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
7	高齢期 特養、サ高住、有料老人ホーム			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
8	高齢期 デイケア、デイサービス			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
9	高齢期 訪問リハビリ、小規模多機能			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
10	高齢期 通所リハビリ事例			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
11	高齢期 認知症の人の気持ち 対応方法			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
12	高齢期 認知症事例			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
13	高齢期 転倒、自動車運転			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
14	高齢期 終末期			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
15	まとめ			復：授業範囲の資料・教科書を読む		
<b>使用教科書</b>		「標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版」医学書院				
<b>参考図書</b>		「老年期の作業療法第3版」三輪書店、「高齢期における認知症のある人への作業療法」三輪書店 「標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版」医学書院				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		授業内課題40% 定期試験60%の総合評価【再試験の取扱：有 定期試験と同様に出題範囲の試験問題にて評価する】				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として、医療機関（身体障害領域）、介護老人保健施設での業務に従事した経験を持つ。臨床経験を踏まえた高齢期作業療法の実践を伝えていきたい。				
有						

専門分野	高次脳機能作業治療学実習Ⅰ	夜間部 3年次	後期	1単位・15回	実習	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 高次脳機能障害を有する方に対して作業療法評価から治療までの一連の流れを理解することを目的とする。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 各障害の症状に応じた介入原則について説明できる。 ② 事例の評価結果からその臨床像を解釈できる。 ③ グループで作業療法評価計画および治療計画・実施について話し合い、その内容を説明することができる。 ④ ひとりで文献検索ができる。						
<b>授業概要</b> 講義、画像所見、演習を通して、意識障害・注意・記憶障害・失語症・失行症・失認症・半側空間無視・社会適応障害・遂行障害などの特徴を把握したうえで、事例検討からクライアントに応じた作業療法の治療展開が考えられるよう授業を進めていく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	中枢神経系について			大脳の構造について予習		
2	高次脳機能障害と日常生活について			各障害の症状や特徴について学習		
3	事例を通して、評価・介入原則を深める①			予定している主題の範囲の教科書を読む		
4	事例を通して、評価・介入原則を深める②			予定している主題の範囲の教科書を読む		
5	事例を通して、評価・介入原則を深める③			予定している主題の範囲の教科書を読む		
6	グループ発表①			事例内容に関連する文献検索		
7	グループ発表②			事例内容に関連する文献検索		
8	グループ発表③			事例内容に関連する文献検索		
9	事例を通して、治療展開を深める①			予定している主題の範囲の教科書を読む		
10	事例を通して、治療展開を深める②			予定している主題の範囲の教科書を読む		
11	事例を通して、治療展開を深める③			予定している主題の範囲の教科書を読む		
12	グループ発表①			事例内容に関連する文献検索		
13	グループ発表②			事例内容に関連する文献検索		
14	グループ発表③			事例内容に関連する文献検索		
15	文献レビューから紹介			SBO達成度の確認		
使用教科書	「標準作業療法学専門分野 高次脳機能作業療法学 第2版」 医学書院 「病気がみえる⑦ 脳・神経 第2版」メディックメディア					
参考図書	「身体機能作業療法学 第3版」 「作業療法評価学 第3版」					
単位認定の方法及び基準	理解度チェックの小テスト40%、グループワーク発表30%×2＝60%による総合評価。グループワークについてはループリックをもとに判定する。再試験の取扱：無					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として長年臨床現場に関わり、様々な評価・治療を行ってきた。その経験を活かしクライアントに応じた作業療法評価計画および治療計画立案・実施ができるよう講義や演習を行っていく。					
有						

専門分野	生活適応学実習	夜間部 3年次	通年	1単位・15回	実習	須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 基本動作および日常生活活動を分析し、評価できるようになるために各評価方法に関連した知識・技術を習得する。疾患ごとの日常生活の特徴、動作分析を理解し技術を習得する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 基本動作・日常生活活動（ADL）・生活関連動作（IADL）の評価を行うことができる ② 各疾患の特性を理解し、それに合わせた評価を列挙することができる ③ 各疾患の特性を理解し、それに合わせた生活の工夫をすることができる						
<b>授業概要</b> 本講義では、日常生活活動とそれに関連する動作の分析・評価を行う。各疾患の特性に合わせた生活の工夫を講義・実技を交えて学習していく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	動作の観察・分析とは			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
2	寝返り・起き上がりの観察と分析 介助方法			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
3	座位姿勢とリーチ動作の観察と分析			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
4	立ち上がりの観察と分析 介助方法			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
5	実技確認			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
6	ボディメカニクスと介助方法Ⅰ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
7	ボディメカニクスと介助方法Ⅱ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
8	ポジショニング			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
9	歩行の観察と分析・関連する福祉用具（機器）の活用方法Ⅰ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
10	歩行の観察と分析・関連する福祉用具（機器）の活用方法Ⅱ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
11	認知症、高齢者のADLの工夫Ⅰ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
12	認知症、高齢者のADLの工夫Ⅱ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
13	難病のADLの工夫Ⅰ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
14	難病のADLの工夫Ⅱ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
15	ADL評価のまとめⅠ			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
<b>使用教科書</b>	「ゴールドマスターテキスト 日常生活活動学 改訂第2版」メジカルビュー社					
<b>参考図書</b>	適宜資料配布					
<b>単位認定の方法及び基準</b>	課題（小テスト含む）70%、実技試験30%をもって判定する（通年）					
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として一般病院（急性期）、介護老人保健施設の業務に従事した経験を持つ。臨床での経験を踏まえた授業を展開する。					
有						

専門分野	生活適応学実習	夜間部 3年次	通年	1単位・15回	実習	須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 基本動作および日常生活活動を分析し、評価できるようになるために各評価方法に関連した知識・技術を習得する。疾患ごとの日常生活の特徴、動作分析を理解し技術を習得する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 基本動作・日常生活活動（ADL）・生活関連動作（IADL）の評価を行うことができる ② 各疾患の特性を理解し、それに合わせた評価を列挙することができる ③ 各疾患の特性を理解し、それに合わせた生活の工夫をすることができる						
<b>授業概要</b> 本講義では、日常生活活動とそれに関連する動作の分析・評価を行う。各疾患の特性に合わせた生活の工夫を講義・実技を交えて学習していく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
16	ADLと機能的関節可動域			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
17	呼吸器疾患のADLの工夫 I			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
18	呼吸器疾患のADLの工夫 II			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
19	大腿骨頸部骨折者のADLの工夫 I			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
20	大腿骨頸部骨折者のADLの工夫 II			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
21	脊髄損傷者のADLの工夫 I			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
22	脊髄損傷者のADLの工夫 II			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
23	脳卒中者のADLの工夫 I			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
24	脳卒中者のADLの工夫 II			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
25	関節リウマチ者のADLの工夫 I			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
26	関節リウマチ者のADLの工夫 II			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
27	パーキンソン者のADLの工夫 I			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
28	パーキンソン者のADLの工夫 II			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
29	ADL評価のまとめ II			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
30	ADL評価のまとめ III			予：教科書の確認 復：講義資料の復習		
使用教科書	「ゴールドマスターテキスト 日常生活活動学 改定第2版」メジカルビュー社					
参考図書	適宜資料配布					
単位認定の方法及び基準	課題（小テスト含む）70%、実技試験30%をもって判定する（通年）					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として身体機能領域の病院、介護老人保健施設の業務に従事した経験を持つ。臨床経験を踏まえた授業を展開する。					
有						



専門分野	臨床技術演習Ⅰ	夜間部 3年次	後期	2単位・15回	演習	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 臨床評価実習に臨むための、基本的態度や技能を身につける						
<b>SBO（行動目標）</b> 面接、評価測定時において対象者に対して配慮したうえで、必要な情報を得るための態度をとることができる （具体的にはOSCE課題である「コミュニケーション技法」「療法士面接」「MMT」「BRS」の各課題における態度目標、技能目標を達成することとなる）						
<b>授業概要</b> ・OSCEという学習技法を用い、各課題について説明、練習、達成度の確認という流れで実施していく ・グループの力を用い、メンバー間で協力して練習、達成度の確認を行う						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	「リスク管理」			復習		
2	「コミュニケーション技法」解説、練習			練習		
3	「コミュニケーション技法」練習			練習		
4	「コミュニケーション技法」課題達成度確認			復習		
5	「療法士面接」解説、練習			練習		
6	「療法士面接」練習			練習		
7	「療法士面接」課題達成度確認			復習		
8	「MMT」解説、練習			練習		
9	「MMT」練習			練習		
10	「MMT」練習			練習		
11	「MMT」課題達成度確認			復習		
12	「Brunnstrom Recovery Stage」解説、練習			練習		
13	「Brunnstrom Recovery Stage」練習			練習		
14	「Brunnstrom Recovery Stage」練習			練習		
15	「Brunnstrom Recovery Stage」課題達成度確認			復習		
<b>使用教科書</b>	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版					
<b>参考図書</b>	適宜紹介する					
<b>単位認定の方法及び基準</b>	授業内における各課題への取り組み姿勢と実技試験による総合評価 再試験の取り扱い：有					
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として10年務めた経験が有り、その業務経験を活かし、臨床において必要な典型的な評価、治療介入について演習を行う。 この授業で身につける態度は、臨床実習を想定した場面にもなる為、しっかり練習し身につけて貰うよう指導する。					
有						



専門分野	地域作業療法学Ⅰ	夜間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 地域における障害者の生活環境全般についての理解を深め、支援していくために必要な知識や技術を習得し、問題解決能力を培う事を目標とする。						
<b>SBO（行動目標）</b> ①地域医療・介護保険制度について述べる事が出来、それらの制度を活用した在宅生活を考える事が出来る ②社会資源について列挙し、それぞれの役割について説明する事が出来る ③身体機能に合わせて住環境調整の支援・指導のポイントを説明する事が出来る ④地域作業療法について事例を通して理解を深める ⑤救急救命に関する知識と技術を学ぶ						
<b>授業概要</b> 日常生活に困難を抱えている方を支援していくために必要な知識を学ぶ。住環境整備、地域社会の環境について事例を通し理解を深めていく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	地域作業療法定義 地域作業療法の役割			復：配付プリントの復習		
2	社会生活支援・連携・協働			復：配付プリントの復習		
3	予防介護のリハビリテーション			復：配付プリントの復習		
4	フレイルについて①			復：配付プリントの復習		
5	フレイルについて② フレイル測定を経験してみよう			動ける服装		
6	地域の防災と災害支援			復：配付プリントの復習		
7	救命救急講習①			動ける服装		
8	救命救急講習②			動ける服装		
9	住宅改修①			復：配付プリントの復習		
10	住宅改修②			復：配付プリントの復習		
11	住宅改修③			自宅の間取り図作成		
12	住宅改修④			予：発表準備		
13	地域で求められる作業療法士の起業			復：配付プリントの復習		
14	演習：こんな地域活動があったら良いな			予：住んでいる地域の『まちづくり』について考えてくる		
15	発表/国家試験対策			予：発表準備		
使用教科書	「PTOTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版」 羊土社					
参考図書	「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 地域作業療法学 改定第2版」メジカルビュー社					
単位認定の方法及び基準	課題提出及び確認テスト、授業態度の総合評価（100%） 再試験の取り扱い：有					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として10年勤めた経験が有り、訪問リハビリテーションにおいて治療に携わった経験がある。さらに、地域支援事業のフレイルトレーナーとして活動を行っている。その経験を活かし、地域で活躍できる作業療法士の育成に重きを置いた授業を展開していく。					
有						

専門分野	地域作業療法学Ⅱ	夜間部 3年次	前期	2単位・15回	講義	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 人間の職業的発達、就業の意義、職務分析、職業前評価及び障害者の就業状況を理解し、職業生活の継続を目標とした作業療法を学ぶ						
<b>SBO（行動目標）</b> (1) 障害のある人にとっての職業・就労の意味を説明する事が出来る (2) 職業リハビリテーションの理念と意義を説明する事が出来る (3) 職業リハビリテーションにおいて、作業療法士が果たす役割を説明する事が出来る (4) 障害者雇用に関する法制度や支援事業の説明する事が出来る						
<b>授業概要</b> 「働く」という事がどのような価値を持つかという観点で作業療法を考え、対象者が就労・職場復帰する為の支援に関する基礎知識及び支援方法を身に付ける事を目的とする。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	オリエンテーション 『人と職業』			教科書の該当ページの予習・復習		
2	職業リハビリテーション活動の概念			教科書の該当ページの予習・復習		
3	就労支援に関する理論			教科書の該当ページの予習・復習		
4	障害者の就労と制度			教科書の該当ページの予習・復習		
5	就労支援技術			教科書の該当ページの予習・復習		
6	就労支援における作業療法士の役割			教科書の該当ページの予習・復習		
7	職業レディネス検査実施			職業レディネス検査の事前予習		
8	関連職種・機関との連携			教科書の該当ページの予習・復習		
9	復職（リワーク）支援について			教科書の該当ページの予習・復習		
10	作業療法評価・治療過程			教科書の該当ページの予習・復習		
11	各種検査の実施			各種検査の事前予習		
12	障害別就労支援の実際①（精神障害）			教科書の該当ページの予習・復習		
13	障害別就労支援の実際②（知的・発達障害）			教科書の該当ページの予習・復習		
14	障害別就労支援の実際③（高次脳機能障害）			教科書の該当ページの予習・復習		
15	国家試験対策/まとめ			第14回までの授業の復習		
<b>使用教科書</b>		『就労支援の作業療法-基礎から臨床実践まで-』第1版 医歯薬出版株式会社 『職業レディネス・テスト [第3版] 手引き』独立行政法人 労働政策研究・研修機構				
<b>参考図書</b>		『標準作業療法学 作業療法評価学 第3版』医学書院				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		課題提出及び定期試験、授業態度の総合評価（100%） 再試験の取り扱い：有				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として就労に携わった経験がある。就労支援の現状や障害者の地域参加の観点からに基づき、地域で活躍出来る作業療法士の養成の為の授業を展開していく。				
有						

専門分野	臨床評価実習	夜間部 3年次	後期	4単位・20日	実習	土居大祐 他・専任教員
<b>GIO（一般教育目標）</b> 作業療法士が実施する評価の流れや背景を理解する。 典型的な作業療法クライアントに対し作業療法プログラムを立案することができる。						
<b>SBO（行動目標）</b> 《態度領域》指導者のもと、①報告・連絡・相談、確認ができる ②スタッフ、家族と良好な関係をつくる ③時間や規則を守る ④感染対策を理解し責任ある行動がとれる ⑤疑問点を自ら見つけ解決しようと努力する 《技術・思考領域》指導者のもと、①OTプログラム立案に必要な評価項目を列挙できる ②OT評価に必要な情報の一部を収集する ③基本的な評価技術を経験する ④OTプログラム立案に必要な記録ができる ⑤指導者の指示に従い職場内の整理・整頓、用具の準備・片づけを行う						
<b>授業概要</b> 臨床実習は、作業療法士が勤務するさまざまな現場に向向き、作業療法士が実際に行う作業療法の場面に参加（見学・模倣・実施）することにより、専門職として求められる知識・技術・態度を主体的に学ぶ過程である。評価実習では、作業療法の一般的な思考過程に基づきクライアントの全体像を把握する流れを理解できるよう導きたい。						
<b>授業計画又は学習の主題</b>				<b>授業時間外の予習・復習等</b>		
臨床評価実習は、 ①実習前評価（OSCE実技試験・課題提出・書類準備） ②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容） ③実習後評価（実習後振り返り・実習報告会）により構成される。 ◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。						
<b>単位認定の方法及び基準</b>		臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により総合的に判断し学内にて決定する。再試験の取り扱い：無				

# 講 義 概 要

作業療法学科夜間部 第4学年

2024

# 目 次

作業療法学科夜間部 第4学年

研究法（須藤 他・専任教員）.....	173
身体機能作業治療学実習Ⅱ（阿部 須藤）.....	174
精神機能作業治療学実習Ⅱ（土居）.....	175
高齢期作業治療学実習Ⅱ（須藤）.....	176
高次脳機能作業治療学実習Ⅱ（杉山）.....	177
臨床技術演習Ⅱ（阿部）.....	178
作業療法治療学演習（土居）.....	179
総合臨床実習Ⅰ（土居 他・専任教員）.....	180
総合臨床実習Ⅱ（土居 他・専任教員）.....	181
総合統合演習Ⅱ（土居）.....	182

基礎分野	研究法	夜間部 4年次	後期	2単位・15回	講義	須藤京子 他・専任教員
<b>GIO（一般教育目標）</b> 作業療法実践の質的向上をはかる上で欠かせない事例研究の手順を理解する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 臨床実習等で実際に体験した作業療法内容を振り返り、さらに解決したい課題や疑問を列挙できる。 ② 作業療法の成果（結果）を裏付ける先行研究を検索し、事例との関連性を説明することができる。 ③ 作業療法士協会が公表している「事例報告書作成の手引き」に基づき報告書を作成することができる。						
<b>授業概要</b> これまでの臨床実習経験を振り返り、今後の臨床活動に活かすべき知見を明らかにするとともに作業療法研究活動の必要性を認識できるように課題を設定する。学生1人（もしくは1グループ）につき1名の専任教員を配置し指導を進める。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	研究をはじめるとにあたって			予：研究とは何か		
2	研究の種類とデザイン			復：指定教科書をもとに授業で実施した内容		
3	統計解析			復：指定教科書をもとに授業で実施した内容		
4	学会発表			復：指定教科書をもとに授業で実施した内容		
5	事例研究：担当教員の指示に従い学習を進めていく					
6	事例研究					
7	事例研究					
8	事例研究					
9	事例研究					
10	事例研究					
11	事例研究					
12	事例研究					
13	事例研究					
14	事例研究					
15	事例研究					
<b>使用教科書</b>		「作業療法研究法」医歯薬出版				
<b>参考図書</b>		適宜紹介する。				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		授業期間中の課題提出状況および内容、成果を各教員共通のルーブリック（目標達成評価表）をもとに判定する。【再試験の取扱：無 提出物の内容が不十分であった場合、再提出を課する】				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 各領域における研究経験を有する教員が担当する。				
有						

専門分野	身体機能作業治療学実習Ⅱ	夜間部 4年次	前期	1単位・15回	実習	阿部正美 須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 3年次の身体機能作業治療学実習Ⅰで得た学習方法を継続し、総合臨床実習で求められる基礎知識と技術・臨床思考過程を習得する。						
<b>SBO（行動目標）</b> 1. 身体障害領域における各疾患の病態増像を理解した上で、評価・治療の視点が説明できるようになる 2. 各疾患の障害像から最適な治療を選択し、自らの考えを述べるようになる 3. 基礎知識の再学習を行い、知識定着を図る						
<b>授業概要</b> 身体障害領域の主な対象疾患である脳血管障害・運動器疾患・呼吸器疾患・循環器疾患などに対する作業療法について、事例を通して臨床思考過程を紹介する。また、総合臨床実習において学生自身が治療介入を調べ、考えられるように授業内で導く。さらに、国家試験問題を通して基礎知識を深めていくよう授業展開していく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	事例検討：脳血管障害①			予復習：事例を理解する		
2	事例検討：脳血管障害②			予復習：事例に関するOT評価・OT介入を調べ考える		
3	事例検討：運動器疾患①			予復習：事例を理解する		
4	事例検討：運動器疾患②			予復習：事例に関するOT評価・OT介入を調べ考える		
5	事例検討：呼吸器疾患①			予復習：事例を理解する		
6	事例検討：呼吸器疾患②			予復習：事例に関するOT評価・OT介入を調べ考える		
7	事例検討：循環器疾患①			予復習：事例を理解する		
8	事例検討：循環器疾患②			予復習：事例に関するOT評価・OT介入を調べ考える		
9	国家試験問題から基礎知識を学ぶ①：脳血管疾患 ～自己学習～			予復習：ポスター作成		
10	国家試験問題から基礎知識を学ぶ②：脳血管疾患 ～シェア学習～			予復習：シェア発表の準備		
11	国家試験問題から基礎知識を学ぶ①：運動器疾患 ～自己学習～			予復習：ポスター作成		
12	国家試験問題から基礎知識を学ぶ②：運動器疾患 ～シェア学習～			予復習：シェア発表の準備		
13	国家試験問題から基礎知識を学ぶ①：呼吸・循環器疾患 ～自己学習～			予復習：ポスター作成		
14	国家試験問題から基礎知識を学ぶ②：呼吸・循環器疾患 ～シェア学習～			予復習：シェア発表の準備		
15	総まとめ			SBO達成度の確認		
<b>使用教科書</b>		「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版」医学書院 その他、資料を適宜配布する				
<b>参考図書</b>		「作業療法評価学 第3版」医学書院、「作業療法 技術ガイド 第4版」文光堂、今まで使用した教科書				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		授業内課題の提出20%、定期試験80%をもって判定する。なお、提出期限後の提出および未提出は減点する。 【再試験の取扱：有 定期試験と同等に出題範囲の試験問題にて評価する】				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として医療機関や地域での業務に従事した経験をもつ。幅広い経験を活かし、作業療法の思考や治療展開を紹介していく。				
有						

専門分野	精神機能作業治療学実習Ⅱ	夜間部 4年次	前期	1単位・15回	実習	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 1. 精神疾患・障害の特徴に合わせ、自ら実現可能で有効な作業療法を計画出来る力を身に付ける 2. 精神疾患・障害の回復段階・時期に合わせ、自ら実現可能で有効な作業療法を計画出来る力を身に付ける						
<b>SBO（行動目標）</b> 1. 精神障害の各疾患、障害の特徴を理解する事が出来る 2. 疾患ごとに対し、作業療法において考慮する事項を理解する事が出来る 3. 症例を通じた課題で自ら考え、活動課題を通して考えた事と行動を一致させる事が出来る 4. 疾患ごとの国家試験関連レベルの問題を解く事が出来る						
<b>授業概要</b> 精神医学、精神機能に対する評価、治療の授業が終了している事を前提として、より具体的なイメージを持ち、作業療法士としての対応に繋げられるよう症例検討を参考に、自ら思考する時間に重きを置いた授業を実施する予定。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	概要説明 / 気分（感情）障害			予定している主題範囲内の教科書を読む		
2	単極性うつ病 症例検討（課題）			予定している主題範囲内の教科書を読む		
3	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害			予定している主題範囲内の教科書を読む		
4	転換性障害 症例検討（課題）			予定している主題範囲内の教科書を読む		
5	パーソナリティ障害			予定している主題範囲内の教科書を読む		
6	学習理論・認知行動療法（課題）			予定している主題範囲内の教科書を読む		
7	物質関連障害・物質誘発性障害			予定している主題範囲内の教科書を読む		
8	アルコール依存症 症例検討（課題）			予定している主題範囲内の教科書を読む		
9	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群			予定している主題範囲内の教科書を読む		
10	器質性精神障害、老年期精神障害			予定している主題範囲内の教科書を読む		
11	血管性認知症症例・バリデーシヨンの実践(課題)			予定している主題範囲内の教科書を読む		
12	てんかん			予定している主題範囲内の教科書を読む		
13	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害			予定している主題範囲内の教科書を読む		
14	統合失調症			予定している主題範囲内の教科書を読む		
15	統合失調症 症例検討（課題） プログラム立案・発表			予定している主題範囲内の教科書を読む		
使用教科書	「標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学 第3版」医学書院					
参考図書	「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版」メジカルビュー社					
単位認定の方法 及び基準	課題提出及び確認テスト、授業態度の総合評価（100%）再試験の取り扱い：有					
実務経験のある 教員の担当する 授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 精神科病院にて作業療法士として治療に携わった経験がある。精神科作業療法の実務経験に基づいて、精神科領域で活躍出来る作業療法士の養成の為の授業を展開していく。					
有						



専門分野	高齢期作業治療学実習Ⅱ	夜間部 4年次	前期	1単位・15回	実習	須藤京子
<b>GIO（一般教育目標）</b> 高齢者が地域での生活を続けていくことと、その地域での制度・作業療法士の役割について理解し、適切な援助・指導方法が実施できるようにする。						
<b>SBO（行動目標）</b> ①虚弱・障害者高齢者に対する作業療法の特徴と介入方法を理解し、模擬的に実践できる。②廃用症候群の高齢者に対する作業療法の特徴と介入方法を理解し、模擬的に実践できる。③認知症高齢者を理解し、作業療法の特徴と介入方法を理解し、模擬的に実践できる。④バイタルチェックや喀痰吸引など、臨床において必要となる基本的な医療手技を習得する。⑤事例に基づいた効果的な作業療法介入を検討し、より実践的な知識と技術を身につけて実践できる。						
<b>授業概要</b> 高齢期に多く見られる疾患に対する治療の模擬実践ができることを目的とする。具体的には、虚弱高齢者、廃用症候群、認知症等の作業療法内容を理解し、模擬的に実践できる。バイタルチェックや喀痰吸引など、臨床において必要となる基本的な医療手技を習得する。授業はグループワークを主体とし、より効果的な介入方法を検討するよう進めていく。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	事例1：虚弱高齢者・廃用症候群の高齢者について介入および支援方法を検討する①			予復習：事例症例を読み込み理解を深める		
2	事例1：虚弱高齢者・廃用症候群の高齢者について介入および支援方法を検討する②			予復習：虚弱高齢者および廃用症候群の特性および介入原則について		
3	事例1：虚弱高齢者・廃用症候群の高齢者について介入および支援方法について模擬的に実践発表する①			予復習：虚弱高齢者および廃用症候群の特性および介入原則について		
4	事例1：虚弱高齢者・廃用症候群の高齢者について介入および支援方法について模擬的に実践発表する②			予：発表準備		
5	事例2：認知症高齢者について介入および支援方法を検討する①			予復習：認知症高齢者の特性および介入原則について		
6	事例2：認知症高齢者について介入および支援方法を検討する②			予復習：認知症高齢者の特性および介入原則について		
7	事例2：認知症高齢者について介入および支援方法を検討する③～文献検索～			予復習：介入方針を整理し文献を検索する		
8	事例2：認知症高齢者について介入および支援方法について模擬的に実践発表する①～発表準備～			予復習：介入および支援方法をまとめる		
9	事例2：認知症高齢者について介入および支援方法について模擬的に実践発表する②～発表～			予：発表準備		
10	高齢期作業療法における集団への関り①～レクリエーションについて紹介～			予：レクリエーションとは何か、効果		
11	高齢期作業療法における集団への関り②～レクリエーション企画・発表準備			予復習：レクリエーション企画書を作成する		
12	演習：レクリエーション発表			予：発表準備		
13	バイタルチェックや喀痰吸引について基本的知識と医療手技①			予復習：配布資料の確認		
14	バイタルチェックや喀痰吸引について基本的知識と医療手技②			予復習：配布資料の確認		
15	総まとめ			復：今までの事例について内容を整理する		
<b>使用教科書</b>		「標準作業療法学 高齢期作業療法学 第3版」医学書院、その他随時資料を配布する				
<b>参考図書</b>		「認知症の作業療法 第2版」医歯薬出版、「考える作業療法：活動能力障害に対して」文光堂				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		グループワーク発表40%、課題提出60%により判定する。なおグループワーク発表に参加しなかった場合、その配分の点数を与えない。【再試験の取扱：無】				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として、医療機関（身体障害領域）や介護老人保健施設での業務に従事した経験を持つ。実務経験を踏まえた話題や討論を提供したい。				
有						

専門分野	高次脳機能作業治療学実習Ⅱ	夜間部 4年次	前期	1単位・15回	講義	杉山愛國
<b>GIO（一般教育目標）</b> 3年次までに学習した高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の介入原則を理解したうえで、クライアントの個性に応じた作業療法評価計画および治療計画の立案・実施ができるよう知識や技術を習得する。						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 各障害の症状に応じた介入原則について説明できる。 ② 事例の評価結果からその臨床像を解釈し説明できる。 ③ グループで作業療法評価計画および治療計画について検討し、治療展開を調べる。						
<b>授業概要</b> 3年次までに学習した基本的な治療介入原則をもとに、事例からクライアントの個性に応じた作業療法展開を考えていく。その際に文献検索および抄読を取り入れ、最新の治療の介入に関心を高められるよう導く。発表は、総合臨床実習や卒後の症例報告等、資料作成機会へのスキルに繋げるためにもスライド(PowerPoint)にまとめて行うこととする。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	脳画像について			復：2・3年次で学んだ知識		
2	事例を通じて作業療法評価計画を立案する 演習：個人ワーク⇒グループワークにて1つを立案			復：評価計画の立案とは？ICFとは？		
3	評価内容や結果を分析・解釈し、ICFとMTDLPをまとめる 演習：評価計画の修正も検討し、個人⇒グループ学習			復：症例像のイメージ化(ICF・MTDLPはどう用いる？)		
4	ICFとMTDLPより事例の全体像を把握し、目標を考える① 演習：グループワーク			予：文献検索		
5	ICFとMTDLPより事例の全体像を把握し、目標を考える② 演習：グループワーク			予：文献検索		
6	目標設定までを発表 演習：評価結果、ICF・MTDLP、目標を発表			予：文献検索		
7	事例の目標達成にむけ、作業療法プログラムを考える			予：教科書の該当ページを読む、文献検索		
8	文献検索および抄読から治療効果を調べプログラム立案に役立てる			復・予：文献抄読		
9	立案したプログラムをさらに深める①：目的・方法・段階付け・準備物など			復・予：文献抄読		
10	立案したプログラムをさらに深める②：目的・方法・段階付け・準備物など			復・予：文献抄読		
11	演習：スライド作成①			発表準備		
12	演習：スライド作成②			発表準備		
13	演習：スライド作成③			発表準備		
14	発表			発表を聞き、わからない用語や評価バッテリーを調べる 復・予：文献抄読		
15	発表 (自動車運転支援について、等)			発表を聞き、わからない用語や評価バッテリーを調べる (予：教科書の該当ページを読む)		
使用教科書	①リハに役立つ脳画像 改定2版 メジカルビュー社、②国家試験にも臨床にも役立つ！リハビリPT・OT・ST・Dr.のための脳画像の新しい勉強本 三輪書店、③標準OT学専門分野高次脳機能OT学第2版					
参考図書	「病気がみえる⑦、脳・神経第2版」「身体機能作業療法第4版」「作業療法評価学第3版」					
単位認定の方法及び基準	授業態度30%および発表スライド・内容70%による総合評価 *課題未提出および発表不参加は減点。【試験等：原則無し】					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 回復期リハ病院で7年間勤め、脳卒中・整形疾患・認知症などを有する患者さまの在宅・仕事復帰に携わってきました。現在は訪問看護へ異動し、難病・小児・終末期などのご利用者さまも担当しています。「療法士として何ができるのか」を日々考えられるような授業を展開していきたいと思っております。					
有						

専門分野	臨床技術演習Ⅱ	夜間部 4年次	前期	2単位・15回	講義	阿部正美
<b>GIO（一般教育目標）</b> 総合臨床実習に臨むための、介入技能を学習する						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 典型的な症例を想定した治療介入ができる ② 各種治療の一連の流れを理解し、OSCEなどを用いて実施することができる ③ 治療の実施に際しては、理論的根拠を明らかにしていくことができる						
<b>授業概要</b> ・OSCEという学習技法を用い、説明、練習、達成度確認という流れで行っていく ・総合臨床実習の全体像を示した上で、実習にできるための準備性を高める						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	関節可動域運動			復：解剖学・運動学の基礎知識		
2	筋力増強運動			復：解剖学・運動学の基礎知識		
3	促通手技			復：解剖学・運動学の基礎知識		
4	振り子運動			復：解剖学・運動学の基礎知識		
5	ポジショニング			復：解剖学・運動学の基礎知識		
6	起き上がり分析			復：解剖学・運動学の基礎知識		
7	起き上がり介入			復：解剖学・運動学の基礎知識		
8	起立・着座分析			復：解剖学・運動学の基礎知識		
9	起立・着座介入			復：解剖学・運動学の基礎知識		
10	移乗分析			復：解剖学・運動学の基礎知識		
11	移乗介入			復：解剖学・運動学の基礎知識		
12	車いす駆動分析・介入			復：解剖学・運動学の基礎知識		
13	スプーン動作の分析・介入			復：解剖学・運動学の基礎知識		
14	更衣動作（上衣）分析・介入			復：解剖学・運動学の基礎知識		
15	更衣動作（下衣）分析・介入			復：解剖学・運動学の基礎知識		
<b>使用教科書</b>		PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 金原出版				
<b>参考図書</b>		必要に応じて資料を配布する。				
<b>単位認定の方法及び基準</b>		授業内における各課題への取り組み姿勢と各実技試験における総合判断。ルーブリックを基に判定する。再試験はないが、試験での成績が不十分であった場合、補習を課する。				
<b>実務経験のある教員の担当する授業科目該当</b>		<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として長年臨床現場に関わり、様々な評価、治療を行ってきた。その経験を活かし、臨床において必要な典型的な評価、治療介入について演習を行う。				
有						

専門分野	作業療法治療学演習	夜間部 4年次	前期	2単位・15回	演習	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 総合臨床実習に向け、診療参加型実習の流れを理解し、クライアントや指導者と良好な関係のもと実習を進める為に必要な学習方法を習得する						
<b>SBO（行動目標）</b> 作業療法場面において実習生が求められる基本的態度を理解し模倣的に実施できる 作業療法場面において実習生が求められるリスク管理および感染対策について理解し模倣的に実施できる 作業療法場面において実習生が求められる基本的技術について理解し模倣的に実施できる 診療参加型実習で求められる報告書の内容を把握し模倣的に実施できる						
<b>授業概要</b> 診療参加型実習において実習生が求められる基本的態度、知識、技術、自己学習方法の習得を目指す						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	オリエンテーション：学習の進め方・成績判定について/診療参加型実習とは			(復習) 自己学習記録を作成する		
2	ルーブリック作成			(復習) ルーブリックを作成する		
3	実技練習 1			(復習) 自己学習記録を作成する		
4	実技練習 2			(復習) 自己学習記録を作成する		
5	実技練習 3			(復習) 自己学習記録を作成する		
6	実技練習 4			(復習) 自己学習記録を作成する		
7	実技練習 5			(復習) 自己学習記録を作成する		
8	実技練習 6			(復習) 自己学習記録を作成する		
9	当事者実習準備 1			(復習) グループで必要な準備を実施する		
10	当事者実習準備 2			(復習) グループで必要な準備を実施する		
11	当事者実習準備 3			(復習) グループで必要な準備を実施する		
12	当事者実習（昼夜間合同）			(復習) 課題レポートを作成する		
13	当事者実習（昼夜間合同）			(復習) 課題レポートを作成する		
14	報告書・作業療法実施計画書の作成			(復習) 自己学習記録を作成する		
15	リハビリテーション実施計画書とMTDLP			(復習) 自己学習記録を作成する		
使用教科書	図解作業療法技術ガイド第4版（光文堂） PT/OTのための臨床技術とOSCE（コミュニケーションと介助・検査測定編）第2版補訂版（金原出版株式会社）					
参考図書	適宜紹介する。2年次まで使用したテキストをいつでも使用できるよう準備しておくこと。					
単位認定の方法及び基準	講義中の課題提出状況および内容、成果を第1回・2回の講義時に提示するルーブリックをもとに判定する。 再試験の取り扱い：有					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	<b>どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか</b> 作業療法士として10年務めた経験が有り、臨床見学及び、臨床実習で多くの学生を指導してきた。その経験を活かし、総合臨床実習に必要な技術・知識を習得する為、事例検討を含めた授業を展開していく。					
有						

専門分野	総合臨床実習Ⅰ	夜間部 4年次	通年	8単位・40日	実習	土居大祐 他・専任教員
<b>GIO（一般教育目標）</b> 作業療法士が実施する評価・介入の流れや背景を理解する。 指導者のもと典型的な作業療法クライアントに対する作業療法プログラムを立案できる。 立案した作業療法プログラムの一部を指導者のもと実施することができる。						
<b>SBO（行動目標）</b> 《態度領域》指導者のもと、①報告・連絡・相談、確認ができる ②スタッフ、家族と良好な関係をつくる ③時間や規則を守る ④感染対策を理解し責任ある行動がとれる⑤疑問点を自ら見つけ解決しようと努力する《技術・思考領域》指導者のもと、①OTプログラム立案に必要な評価項目を列挙できる ②OT評価に必要な情報の一部を収集する ③基本的な評価技術を経験する④OTプログラム立案に必要な記録ができる⑤指導者の指示に従い職場内の整理・整頓、用具の準備・片づけを行う						
<b>授業概要</b> 臨床実習は、作業療法士が勤務するさまざまな現場に出向き、作業療法士が実際に行う作業療法の場面に参加（見学・模倣・実施）することにより、専門職として求められる知識・技術・態度を主体的に学ぶ過程である。総合臨床実習では、作業療法プログラムの立案や再評価（プログラムの修正、リスク管理等）の実際に触れ、基本的な介入技術の一部を習得できるよう導きたい						
<b>授業計画又は学習の主題</b>				<b>授業時間外の予習・復習等</b>		
<p>臨床実習は、</p> <p>①実習前評価（OSCE実技試験・課題提出・書類準備）</p> <p>②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容）</p> <p>③実習後評価（実習後振り返り・実習報告会）により構成される。</p> <p>◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。</p>						
<b>単位認定の方法及び基準</b>	臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により総合的に判断し学内にて決定する。再試験の取り扱い：無					

専門分野	総合臨床実習Ⅱ	夜間部 4年次	後期	8単位・40日	実習	土居大祐 他・専任教員
<b>GIO（一般教育目標）</b> 作業療法士が実施する評価・介入の流れや背景を理解する。 指導者のもと典型的な作業療法クライアントに対する作業療法プログラムを立案できる。 立案した作業療法プログラムの一部を指導者のもと実施することができる。						
<b>SBO（行動目標）</b> 《態度領域》指導者のもと、①報告・連絡・相談、確認ができる②スタッフ、家族と良好な関係をつくる③時間や規則を守る④感染対策を理解し責任ある行動がとれる⑤疑問点を自ら見つけ解決しようと努力する《技術・思考領域》指導者のもと、①OTプログラム立案に必要な評価項目を列挙できる②OT評価に必要な情報の一部を収集する③基本的な評価技術を経験する④OTプログラム立案に必要な記録ができる⑤指導者の指示に従い職場内の整理・整頓、用具の準備・片づけを行う						
<b>授業概要</b> 臨床実習は、作業療法士が勤務するさまざまな現場に向き、作業療法士が実際に行う作業療法の場面に参加（見学・模倣・実施）することにより、専門職として求められる知識・技術・態度を主体的に学ぶ過程である。総合臨床実習では、作業療法プログラムの立案や再評価（プログラムの修正、リスク管理等）の実際に触れ、基本的な介入技術の一部を習得できるよう導きたい						
<b>授業計画又は学習の主題</b>				<b>授業時間外の予習・復習等</b>		
総合臨床実習は、 ①実習前評価（課題提出・書類準備） ②臨床実習（実習施設・指導者が作成するスケジュールに基づく実習内容） ③実習後評価（実習後振り返り・実習報告会）により構成させる。 ◆詳細は、別途配布する臨床実習の手引きに記載する。						
<b>単位認定の方法 及び基準</b>	臨床実習の単位認定は、学内で実施する実習前・後評価および臨床実習指導者による評価により、総合的に判断し学内にて決定する。再試験の取り扱い：無					

専門分野	総合統合演習Ⅱ	夜間部 4年次	後期	8単位・60回	演習	土居大祐
<b>GIO（一般教育目標）</b> 作業療法士に必要な専門分野とこれまで学んだ基礎医学・臨床医学の知識を復習し、習得させる						
<b>SBO（行動目標）</b> ① 自己学習とグループ学習の方法を理解し、実行する事が出来る ② 基礎医学・臨床医学の知識を復習し、自己の苦手分野を克服する事が出来る ③ 作業療法の専門分野を復習し、臨床実習で学んだ知識と統合し、修得する事が出来る						
<b>授業概要</b> セミナーでは、自己学習とグループ学習の方法を理解していく。また、演習を通してグループ間で理解度を確認していく。学生自らの行動学習によりイメージを持って理解できるようにする。PC、タブレットを使用して授業を行う。						
回	授業計画又は学習の主題			授業時間外の予習・復習等		
1	オリエンテーション			特になし		
2	3日間セミナー			課題の復習		
3	3日間セミナー			課題の復習		
4	3日間セミナー			課題の復習		
5	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
6	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
7	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
8	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
9	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
10	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
11	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
12	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
13	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
14	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
15	作業療法専門分野 自己学習・グループ学習			課題の復習		
使用教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2024 『専門基礎分野 基礎医学』『専門分野 臨床医学』『障害別OT治療学』『基礎OT学』医歯薬出版の4冊					
参考図書	適宜資料を配布					
単位認定の方法及び基準	定期試験100%の総合評価 再試験の取り扱い：有					
実務経験のある教員の担当する授業科目該当	どのような実務経験を持つ担当教員が、どのような授業を行うのか 作業療法士として医療機関で作業療法に携わった経験がある。その経験に基づき、学生自らの行動学習によりイメージを持って理解出来るよう指導していく。					
有						